

新型コロナウイルス感染症について(第四報)

～ 保育園で発生した場合の心構えと行事・イベントを考える ～



国立感染症研究所感染症疫学センター 菅原 民枝 大日 康史

(1) 発生に備える視点

現在、新型コロナウイルス感染症の流行においては、緊急事態宣言が出されたのち、解除され、再び患者の増加傾向にあった状態です。この現象を第一波、第二波と呼ぶ人もいますが、いまの傾向については、先の3月から5月にかけての流行を第一波とも呼ばず、これからの状況の前触れとも考えられます。こうした名称は、振り返って名付けられるものです。現在国内での5万人の感染者は、全人口からみると、0.05%以下、つまり10000人に5人以下なので日本人の相当数の人は罹患していません。ワクチン接種が可能になるまでは、罹患する人はいるでしょう。これからも患者数は増減を繰り返す可能性もありますので、そうした準備、心構えをしておく必要があります。

こういう可能性の話を聴くと、これまでかなり対策をやってきたのに、まだまだするの…、と不安で疲弊状態の保育園の先生方は思われるでしょう。いつまでこのような状態が続くの…と思われることと思います。自分は罹るわけにはいかないと、極力外出も避けた生活をしてくださっていることと思います。毎日毎晩の消毒作業は大変だったことでしょう。しかし、誰にもわからないことなのです。これまでの公衆衛生のうち感染症分野(私たちもその一員です)では、感染症疫学の視点から現在の動向を観察し予測もしてきました。しかし今回公衆衛生以外の分野方々も、いろいろな発言をされていますので、そのたびに、気持ち振り回されてきたことと思います。しかし、

何度も、何度も本誌でお伝えしてきていますが、「地域内のサーベイランスでしっかり現在の動向を把握することで、今、何をしなければならないのかを、それぞれの保育園で見極めること」が大事なのです。そうした冷静な視点こそ、日常から備えておくうえで大事なのです。

当初(本誌4月号)、3つの視点をもっていただくことをお願いしました。

- ①最新の発生情報を収集すること。
- ②基本的な感染症の対策を徹底すること。
- ③子ども及び保護者が差別的な扱いを受けることがないようにすること。

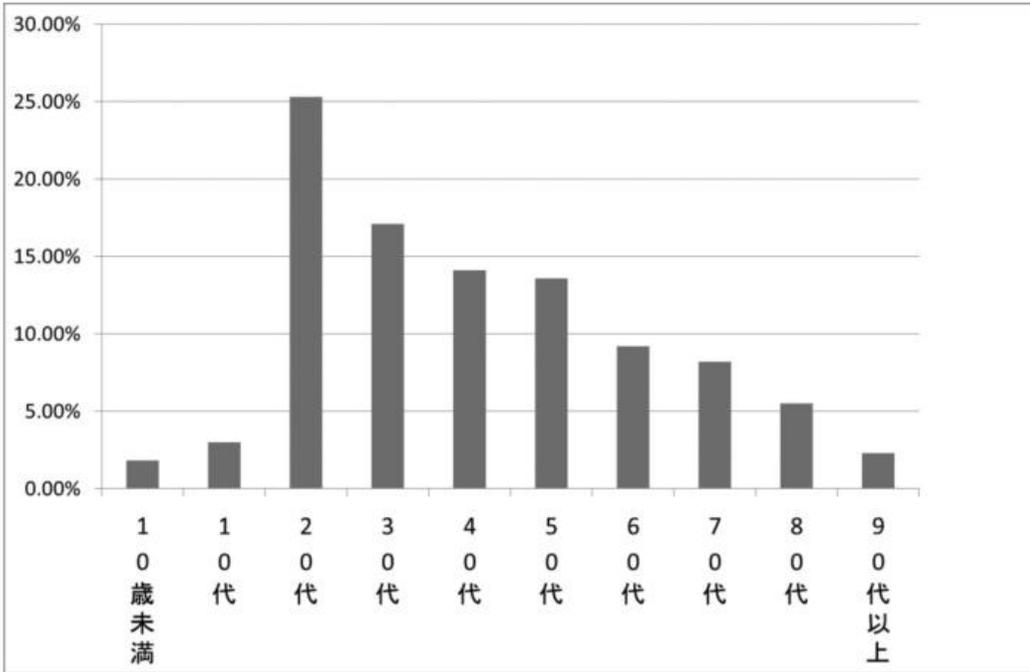
このことは、わかりませんので、忘れないでください。

(2) 例年流行している疾患の動向

新型コロナウイルス感染症の子どもの罹患については、これまでもお伝えしてきているように、総数に比べると罹患者が少ない状態は変わりません。この理由は、明らかにはなっていません。しかし保育園では、「日常からしっかり！」感染症対策をしていますし、新型コロナウイルス感染症の対策だけをしているわけではありません。

国立感染症研究所が発行している「IDWR 2020年第30号<注目すべき感染症> 国内における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の状況」による年代別分布をグラフにしました。

20代が25%を超えており、4人に1人が20代だったことがわかります。一方の10歳未満は1.8%です。



このグラフの患者数は、2020年2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となった以降、第30週（2020年7月29日）までに感染症発生動向調査（NESID）へ届け出られた25,873例（患者22,578例、無症状病原体保有者3,261例、感染症死亡者の死体34例）です。

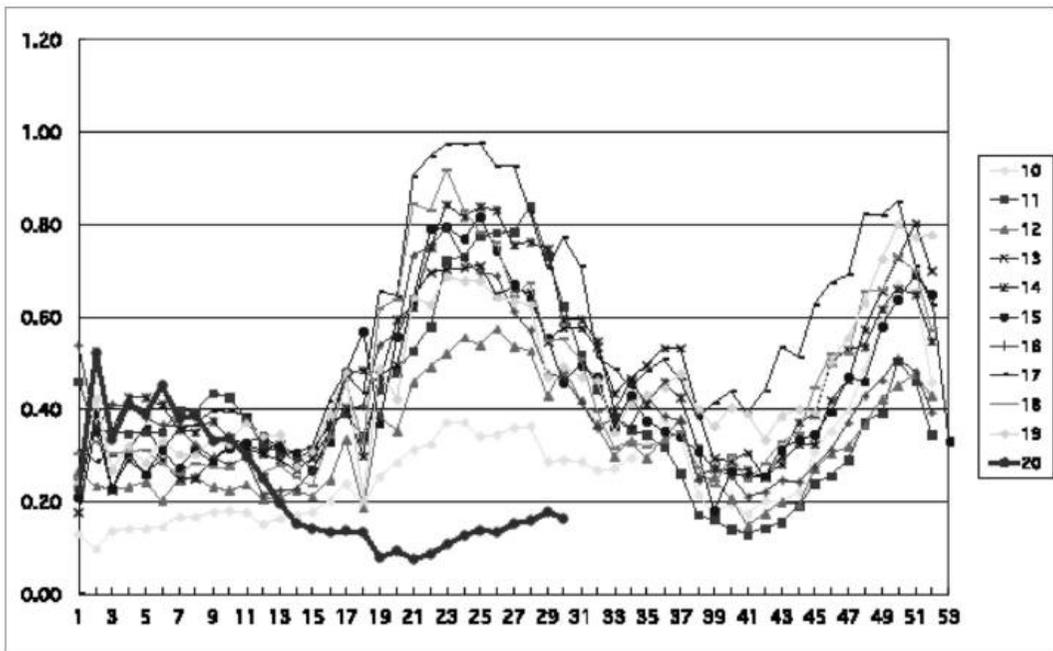


図1 咽頭結膜熱（感染症発生動向調査）30週

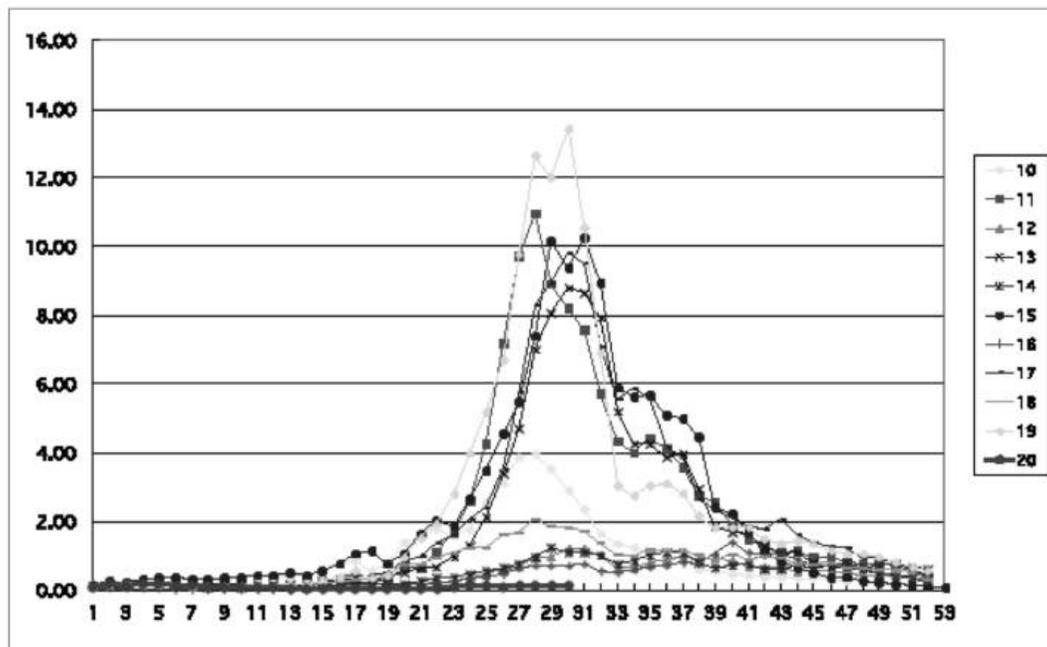


図2 手足口病（感染症発生動向調査）30週

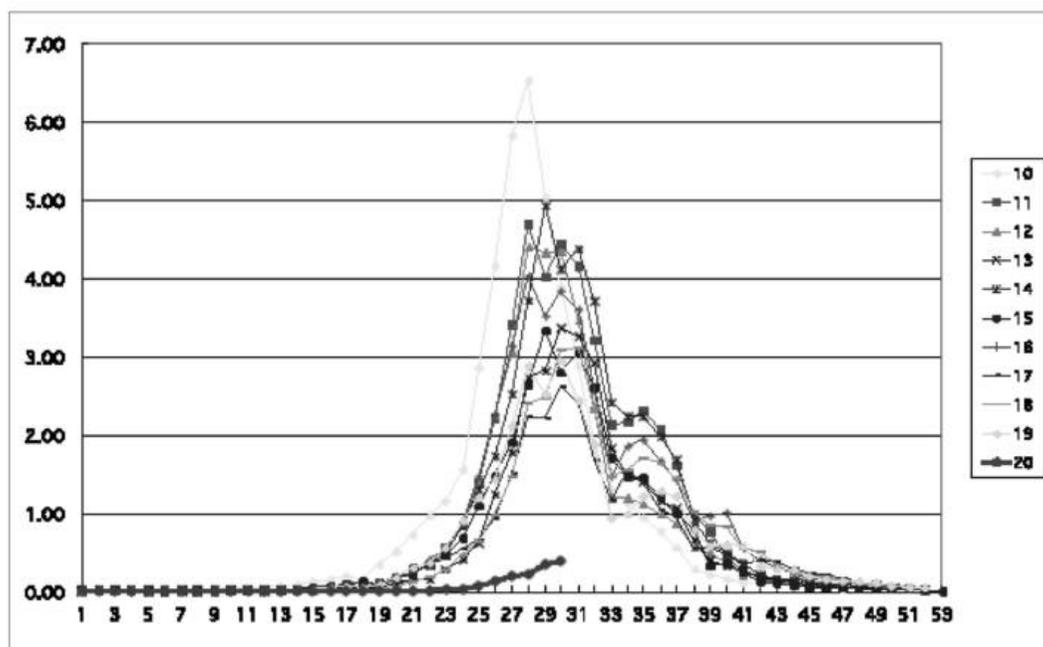


図3 ヘルパンギーナ（感染症発生動向調査）30週

例年であれば8月は咽頭結膜熱や、手足口病、ヘルパンギーナが流行を繰り返してきましたが、今年は驚くほど、そうした疾患も流行が抑えられています。

(3) 7月以降の保育園等での感染事例

3月から一斉臨時休校の政策決定により学校が休校になり、保育園等も休園措置をとったところが多いので、全国的に学校や保育園等において集団生活が始まったのは、6月からということになります。この集団生活が始まって、学校及び保育園での感染事例が報告されはじめました。

特に、東京都内では7月に入ってから報告が続いており、8月から夏休みになった自治体もありますので一時期に比べて現在報告は少なくなっています（8月16日現在）。

子どもは、東京都23区と市町村のそれぞれのホームページで公表されている保育園での事例を収集しました。

東京都23区と市町村では7月に保育園は38件報告されていました。幼稚園が3件、小中学校が29件でした。この報告は、7月1日～31日までの期間に検査結果が陽性となった者を初発例として集計しました。この発生事例の自治体による公表及び公表形式は、自治体によって異なることから、状況のすべてが反映されているわけではありません。公表内容から初発例の情報がわからない場合もあります。公表されている情報をまとめてみると、保育園での初発例が明らかにされている件数は34件で、職員13件（そのうち年齢が明らかかなもので20代3人、40代1人、60代1人）、保育士11件（そのうち年齢が明らかかなもので20代5人、40代1人）、園児10件でした。自治体によっては、保育士という職業ではなく職員としてるので、職員の中に保育士は含まれていると思われる。職業が公表されている情報で、かつ年

齢も公表されている情報では11件中20代が8人となります。

初発例には、職員が勤務時間中あるいは勤務時間外に症状があり医療機関を受診し、新型コロナウイルス感染症の検査で陽性になったという場合の他には、症状がなくても検査を受けたことによって陽性が判明された場合もあります。また、症状がなくても、同居者（家族等）や、習い事等と一緒にする友人等の濃厚接触者となり、検査を受けて陽性となる場合もあります。

(4) 保育園で発生した場合に備える

初発例を探知したら、保育園は施設主管課（保育課等）と保健所、嘱託医（園医）に速やかに連絡をします。その後のことは、自治体から手順を示される場合も多くありますのでその場合は指示に従います。多くの場合積極的疫学調査が行われます。積極的疫学調査とは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第15条にある感染症の発生の状況、動向及び原因の調査にあたるもので、保健所が調査を実施します。調査の在り方は状況によって変わる可能性もあります。しかし、一例で対応する疾患（麻しん、風しん、腸管出血性大腸菌感染症、結核）や、感染性胃腸炎等での集団感染事例が発生した場合についての対応も同じように関係者と連携して行われますので、ポイントを知っておくとよいと思います。

① 保育園から関係者に連絡

- 保育園にとっての関係者のリストが作成してありますか？これは事前に作成しておきましょう。夜間に連絡をとることもあるので、夜間の連絡先も調べておきましょう。
- 保育園として、発生時の担当者が誰であるのかをはっきりさせておきます。情報が担当者に集まるようにし、問い合わせも統一した内容で齟

齟齬が無いようにします。情報収集に時間がかかりますので、**専任者**が望ましいです。

②保健所による積極的疫学調査

- 職員及び園児の連絡先、接触調査、健康調査等を実施するにあたって、**名簿**が必要になります。いつでも使えるように準備しておきましょう。
- 内容は、感染期間の確定（発症日の2日前から最終登園、勤務日）、園内状況及び感染防止策（手洗い、マスクの着用）の状況、濃厚接触者の範囲や検査等が決定されます。濃厚接触者については、国立感染症研究所が「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領（2020年5月29日暫定版）」を発行しており、そこで濃厚接触について定義をしています。

※「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」（「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。）の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

③園内の対応

- 園内の消毒、保育園の運営・休園等の決定、保護者への連絡、公表等について、施設主管課及び保健所に相談して実施します。消毒について

は、必ずしも専門業者を入れる必要はありませんが、専門業者をお願いする場合は、使用する消毒剤及び消毒方法・範囲について事前に確認しましょう。公表については、自治体によって異なりますので、必ず確認をしましょう。

（5）なぜ保護者との連携は必要なのか

毎日子どもの安全と安心をまもっていくために、保育園の先生方はちょっとした子どもの顔色や動作を見逃さない健康観察をしてくださっています。現在、密にならない環境づくりのために人と人との距離をあけたり、マスクを着用したりするために、これまでのような観察は難しいのですが、こういう時こそ、ご家庭と連携を行っていきましょう。また、ご家庭の環境によっては、テレワークや時差通勤等の実施で状況変化があったことで、良い雰囲気になったところがあれば、そうではないところもあるかもしれません。そのことで気持ちが不安定になったりすることでいつも以上に過度に心配になることもあるかもしれません。ですので、保護者の気持ちをくみ取ることも併せて行ってください。その中で、感染症対策に疑問があるようであれば、はやめに情報はお伝えしましょう。

こうした取り組みはなぜ必要なのでしょう。それは、有事に備えるためです。集団感染のご経験がある保育園等では、こうした保護者との連携が大事であることは実感されていると思います。保護者からの連絡が不十分であったり、あるいは保護者への連絡が不十分であったりすると、情報の内容が混乱し、誤解が生じ、双方の不信感が高まってしまったために、何をしてもうまくいかなかったというような事態が起こることもあります。保育園では、集団感染が起こりやすい状況にあるので、それに備えた日常からの衛生管理をしていますが、集団生活のために、どんなに予防活動を

しっかりしていても、起こることはあります。それは、誰かが責められるものではないのですが、保育園の組織として早期に探知ができず、早期に対応ができず、嘱託医、保健所や施設主管課といった行政、保護者、職員等での連携をしておかなかったら、「大混乱」が起こりやすいのです。いかにして、有事が起こる前から、事前の準備ができているか、備えることができているかです。

(6) 行事やイベントについて考える

新型コロナウイルス感染症の対策日々はいつまで続くのか…。そんなことを案じて、日々の状況がすぐに変わることはありません。4月号で最初にすでに流行の長期化についてお伝えしました。そのころ読んでくださった方々は、まさかねえと思われていたかもしれません。一年間の行事やイベントについて、早々に計画の見直しをお願いします。これから秋の行事は、例年であればお月見のだんごづくりがあったり、焼き芋のための芋ほりがあったり、秋の紅葉の遠足や、運動会も企画されているかもしれません。そして、冬にむけてクリスマスや年末年始のイベントもあるかもしれません。

6月号で、「アイデアと工夫で一緒に考えていきましょう」とお伝えしたところ、これまでにはない反響で、多くの保育園の先生、自治体の関係者、保育園の関係者の方から連絡をいただきました。皆さん、どうかこうにかしていかう、という前向きな気持ちでいてくださっていたようです。本当にありがたいことだと思っております。

「これまでと同じような夏祭りはできない？子どもも保護者もとても楽しみにしているのですが…。」

判断は「中止」と「延期」がありますが、今年は延期しても状況が早々に変わることはないので、中止がほとんどです。このほかに、可能な範囲で

やってみようと「大幅に縮小した実施」した事例があるようです。どういう接触を避けたらよいか、換気のタイミングや手洗いのタイミング、室内の物を共有しないための方法、室内での密を避けるための方法など、それぞれの保育園ごとに検討されていたと思います。感染リスクの高い行事やイベントは中止しなければならないことも多いです。感染性胃腸炎が流行しているときに、クッキング等のイベントは、手洗いや消毒を徹底したとしても、リスクがあると想定されるときは中止になります。

日本の夏祭りといえば、京都の祇園祭りです。これは、疫病退散のお祭りですが、今年は中止になりました。国際的にも、例えば、毎年8月に行われるスコットランドのお祭りエジンバラフェスティバルも中止になりました。このフェスティバルはエジンバラの街中で、クラシック音楽のほかにも、バレエ、演劇、オペラ、ミュージカルといった舞台を中心とした芸術祭です。世界トップクラスの演奏や舞台を観ることができるので、世界中の人が観にいきます。しかし今年は中止になりました。

一方で、100年目を迎えるオーストリアのザルツブルク音楽祭は、規模を縮小して実施されました。100年目の記念行事は来年に延期されたものの感染防止の対策を伴って実施する計画を作ったの実施でした。感染が判明した際に接触者の追跡ができるようチケットに購入者の情報を入れたり、観客はマスクの着用を義務付けられたり、休憩や飲食のサービスはしない、1メートルの距離を取れない出演者（例えばオーケストラなど）は定期的に検査を受ける等の対策が行われました。

先のエジンバラフェスティバルは中止になりましたが、「My Light Shines On」という企画が開始されました。ホームページには下記のようなメッセージが出ました（一部省略）。

“Covid-19 has not dimmed the creativity of artists, nor the enthusiasm of all the people who make Edinburgh’s festivals.

For the first time since lockdown began, artists have returned to the venues they love to make theatre together, to play music together, to sing together, to dance together and to light up the skies together.”

「Covid-19は、アーティストの創造性や、エジンバラフェスティバルを創る人々の熱意を弱めていません。

ロックダウンが始まって以来初めて、アーティストたちが、一緒に演劇を作り、一緒に音楽を演奏し、一緒に歌い、一緒に踊り、一緒に空を灯すのが大好きなところに戻ってきました。」

(翻訳は著者ら)

実際にはYouTubeチャンネル、Facebook Live、BBCスコットランドでジャンルを超えたアーティストによる新作を特集した特別委託映画が放映されたそうです。中止になったとしても、アイデアと工夫で、新しい形を創り出しています。

保育園でも一緒に新しい取り組みをしませんか？子どもの笑顔のために、子ども及び保護者、職員が楽しみにしていたイベントを、感染防止の対策を行って実施する形態を検討してみませんか。現在、保育園の感染症対策をしっかりといただいているので、他の感染症の流行も抑えられているようです。感染症対策とイベントや行事の両立をしていくことを、熱意をもって検討していきましょう。ただし、従来どおりの方法では、感染症拡大の事態になってしまう可能性もありますので、検討した結果、中止の決断をすることもあります。そういう時は、思い切って中止してください。また、本稿でお伝えしたように保育園内で感染症が発生している際には、行事・イベントは中止をすることを急ぎご検討ください。

(7) 行事とイベントの感染防止の視点

実施可能かどうか、全ての保育園にあてはまるような一律に決まるものでもなく、それぞれの保育園の人数や環境によって検討が必要です。それぞれの感染症対策委員会において、以下の視点もいれてご検討ください。なお実施に際して、前提は、体調が悪い園児及び職員はお休みをし、日々の健康観察、手洗い、換気、マスク着用、距離をあける等のいわゆる飛沫感染対策、接触感染対策をした上です。さらには、日頃からの衛生管理を行い、サーベイランスを行って保育園内及び地域内のリアルタイム情報を収集した上です。こうした基本的なことが徹底できてこそ、行事やイベントの実施検討が可能で、具体的な視点としては次のような事項などを確認します。

- ①行事・イベント実施の範囲（人数、時間、場所等）は密閉空間、密集場所、密接場面の環境を極力避けることできるかどうか。入場規制や規模の縮小、時間の縮小を検討できるかどうか。
- ②行事・イベント実施中にも、換気を定期的に行えるかどうか。
- ③行事・イベントで使用する物品は可能な限り共有しないもの、非接触のものであるかどうか。
- ④行事・イベント実施中に大きな声を出さずに、可能な限り熱中症対策をしたうえで特に職員や大人はマスクの着用ができるかどうか。

実施を予定する2週間前からは特に子ども、職員の健康観察をしっかり行い、地域の感染症流行状況を確認してください。また、高齢者との交流の行事・イベントにつきましては、高齢者及び基礎疾患がある方の重症化リスクはありますので、避けてください。子ども、職員の健康を守りつつ、楽しい時間をも過ごしていただきたいと祈っております。